

金岡湊

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区金岡東町二丁目10	
 <p>Map showing the location of the Kanagami sign (marked with a red star) in Kanagami East 2-chome, near the Kanagami River and Kanagami Station. The map includes a compass rose and labels for '金岡下町内全渠全線' and '金岡東町2丁目10'.</p>		 <p>Image of the Kanagami sign. The sign features a purple header with the text '岡山県史' and '16001600'. Below the header is the title '金岡湊'. The sign also includes a historical photograph and text describing the site's history: '江戸時代から昭和初期まで、江戸川の支流の名残が残存していた。岡山市には歴史があり、築城地で通称「江戸川」の呼び名、歴史的、景観などを鑑み、江戸川沿いの大船に船乗り、江戸や大阪方面へ船通していた。船の来去を構った渡船場は、多い日で数十船が往來し出入りし、大賑わいだったとされています。現在は客渡船が往來の船乗りはしていません。' and a small logo at the bottom right.</p>

夏目金之助（漱石）

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区金田1901	
		 <p>岡山歴史散歩 ー 名人の歴史を歩く ー</p> <p>夏目金之助（漱石）</p> <p>夏目金之助（後の漱石）は、明治25年（1892）7月16～19日、帝國大学の夏休みに岡山の金田地区を訪れています。亡くなった兄の跡であった小龍の母屋先の煎茶家を扱うためです。金之助は、フランドルの翻譯に学術、且の濃い学生生活で、無敵に上がるや否や静をきちゃんと拵って降り、当宗の岸本福平・小龍夫妻に親しい品を渡しました。</p> <p>この時の事を、福平は、「夏目の金さんは随分変わり者だった。銭字路を紙に包み、水引をかけて『贈呈』と書いていた。」と話していました。</p> <p>（資料提供：RDO→F&C東北会館） 岡山市</p>

三谷公園と金剛童子

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町南方1603付近	 <p>岡山歴史散歩 - 土佐の歴史を知らる -</p> <p>三谷公園と金剛童子</p> <p>三井川は瀬戸湾の発源地といわれ、三谷周辺は船の難所だったので川べに船を繋いでいた。天正年間(1573~1591)、その間が三谷山へ移された際、妙興寺の僧により「金剛童子」と名付けられました。金剛童子は、病弱回復や子どもの守り神として信仰が絶えませんでした。</p> <p>岡山市出身で結城家の内田百閒は、相母とよく参拝に訪れ、「瀬らかや翁の向こうの那の山」と詠み、その句碑は金剛童子の傍らに建立されています。</p> <p>また、三谷公園は自然豊かな紅葉の名所、癒しのスポットとして愛されています。</p> <p>岡山県立歴史民俗学館 岡山歴史散歩 岡山歴史散歩 岡山歴史散歩</p>
 <p>凡例</p> <p> : 設置位置</p>		

宇垣一成・宇垣纏

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町大内1005(大内公民館内)	
		<p>二人は、岡山市東区瀬戸町大内に生まれ、大正から昭和初期にかけて活躍した軍人で、大内の小学校(後の大内小学校、昭和36年(1961)に千歳小学校と合併後廃校)を卒業しました。</p> <p>宇垣一成は十代で母の病に罹り、退学後早稲田に入塾、やがて陸軍大尉となり、陸軍大臣や朝鮮総督などを歴任しました。天皇から勲章を命じられましたが、陸軍の反発により受けませんでした。しかし、太平洋戦争中は、参議院選挙で全日本最高得票で政府に復帰しました。</p> <p>宇垣纏は海軍中將となり、山本五十六少将の連合艦隊司令官の副官として活躍しました。勇しく右衛門将に艦上爆撃機で最後の特攻を行いました。</p> <p>岡山市東区瀬戸町大内1005 1005</p>
<p>凡例</p> <p> : 設置位置</p>		

白桃発見の地

所在地		表示内容
岡山市東区瀬戸町塩納1407付近		
<p>Map showing the location of the white peach discovery site (marked with a red X) near 1407, 瀬戸町塩納. Landmarks include 妙法善神社 and 平野神社. A legend indicates the red X is the '設置位置' (installation location).</p>		<p>岡山県史資料 岡山県の歴史を知らず</p> <h2>白桃発見の地</h2> <p>岡山の代表的な特産品である白桃は、天久夜 善五郎が発見しました。</p> <p>善五郎は、慶応3年（1867）に岡山市東区 瀬戸町塩納山の畑の雑草に生まれ、青年時代に 小山甚久の農業塾に入門。明治32年（1899）に上海島の果生から珍しい新品種を発見・育成し、「白桃」と命名しました。</p> <p>また、大塚農林研究所で園芸を担当し、傾聴器、野定はさみ、葡萄剪引きはさみを考案して、果樹園芸の発展に努めました。</p> <p>退官後は、岡別から自園に持ち帰った柿の交配を研究し、昭和2年（1927）、新品種「天久夜桃」を作り出しました。天久夜桃は、岡山県が他の産地として名声を誇る基盤となったのです。</p> <p>（岡山県史資料「瀬戸町塩納」より） 2019</p>

西大寺観音院

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺中3-8-8	<div data-bbox="1429 363 1966 1353"> <p>岡山歴史散歩 -西大寺まちなみめぐり-</p> <h2>西大寺観音院</h2> <p>西大寺の創建は、『金葉山古本縁起』によると、天平勝宝3年(751)に藤原宿禰が千手観音の本尊を安置したことに始まるとされています。</p> <p>宝龜8年(777)安藤上人が伽藍を建立する際に竜神から授けられた犀の角を堂の下に納め、寺名を犀載寺としたと伝えられており、これが寺名の由来と書われ、地名ともなりました。</p> <p>境内では延喜6年(1678)竣工の三重塔、江戸時代末期の本堂などが伽藍を構成しています。</p> <p>Saidaiji Kannonin Temple</p> <p>According to the <i>Kinryūsan Koban Engi</i>, the foundation of the temple is said to be the enshrinement of the principal image of the thousand-armed Kannon in 751 by Fujiwara no Murakami.</p> <p>It is said that in 777 Anryū Shinin dedicated a rhinoceros horn, which he received from the god of dragon, under the cathedral when the construction took place. Tradition says that he named the temple Saidaiji (in Japanese, it means "the temple which was given the rhinoceros"), and it became the origin of the temple's name nowadays, and also the name of the relevant place.</p> <p>Constructions such as the Three-story Pagoda completed in 1678 and the Main Hall built in the end of the Edo era structure the cathedral in the temple grounds.</p>    <h3>西大寺会陽</h3> <p>室町時代から伝わる「はだか祭り」と西大寺会陽は、約1万人に及ぶまじろの男性たちが福を求めて本堂に集まり、御簾窓から投下される宝木と呼ばれる2本の木製護符を奪い合う奇祭です。</p> <p>14日間わたって五穀豊穡などを祈願する修正会の満願に合わせ、毎年2月の第3土曜日夜に行われます。</p> <p>平成28年(2016)3月、「会陽の多くが廃絶する中、伝承状況が良好で、行事の規模も大きく、会陽の典型例」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。</p> <p>Saidaiji Eyo</p> <p>The Saidaiji Eyo, also the Naked Man's Festival, is a festival with a bizarre ritual. Passed down from the Muromachi era (1338~1573), in this festival, about ten thousand men in sumo wrestlers' loincloth gather around the Main Hall, wishing to be blessed. They scramble for the two wooden amulets called Shingū, which is dropped from the window of happiness named Gofukumakō.</p> <p>The festival takes place on the night of the third Saturday in February, arranged with the completion of the vow of Shushoo. Shushoo is a Buddhist rite held on New Year's Day which prays for bumper crops over a span of two weeks.</p> <p>In March 2016, the festival was designated as a national important intangible folk cultural property. Under the circumstances that many of other Eyos abolish, Saidaiji Eyo was valued for its well-maintained propagation and large scale, being a representative</p> </div>
		

西川に架かる橋

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺中1-16-17付近	
		<p>岡山歴史散歩 - 西大寺まちなみめぐり -</p> <h2>西川に架かる橋</h2> <p>自然の流れではなく、灌漑用につくられた西川は、吉井川の支流から水を取り入れ、見瀬湾に注いでいます。</p> <p>一般に東の大川(吉井川)に対して、西川と呼ばれる、地名や番号、伝承により名付けられた様々な由来を持つ橋が架けられています。</p> <p>橋を楽しみながら西川沿いやその周辺をたどることで、川と親しんできたまちの歴史に触れることができます。</p> <p>岡山市</p> <p>Bridges built over Nishigawa River</p> <p>Nishigawa River is not a natural river, but it was built for irrigation. It takes water from Kamogoshizeki Weir of Yoshigawa River and flows into Kojimawan Bay.</p> <p>Generally called as Nishigawa (in Japanese, the river of the west), compared with the eastern big river (Yoshigawa River), the river holds many bridges named after various origins such as their place, constructed era and tradition.</p> <p>You can feel the history of the city which has been familiar with the river by appreciating the bridges and walking around Nishigawa River and surrounding areas.</p> <p>Okayama City</p> <p>千年橋 この地の千年の繁栄を願って命名されたものと推測できます。大正6年(1917)に架けられた橋で、強く美しい姿を保っています。</p> <p>荒原橋 近くに祀られている荒原宮では、昭和初期頃まで少年会館が行われていました。</p> <p>境橋 旧町名で北之町と中瀬町の境界上に位置します。この2町を通る五福通りでは、昔ながらの看板建築が建ち並んでいます。</p> <p>Chitosebashi Bridge It is estimated that the bridge was named with a wish of eternal prosperity (Chitose) of this place. Built in 1917, it still holds a strong and beautiful appearance.</p> <p>Arakuwabashi Bridge In the Arakuwagu Shrine near the bridge, an Eyo (a special festival) by young boys took place up to the start of the Showa period.</p> <p>Sakaihashi Bridge It is placed on the boundary of two old towns, Kitano-cho and Nakafuku-cho. Along Gofukudori, a street passing through the two towns, there are many old-fashioned billboard architectures.</p>

旧カネボウ綿糸西大寺工場跡地

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺南1-2-4	<div data-bbox="1413 379 1971 1340"> <p>岡山歴史散歩 -西大寺まちなみめぐり-</p> <h2>旧カネボウ綿糸西大寺工場跡地</h2> <p>明治29年(1896) 西大寺村とその近在の有力者により設立された西大寺紡績は、明治44年(1911)に鐘淵紡績に編入合併され、鐘紡西大寺工場として操業を開始しました。</p> <p>第2次世界大戦では、名古屋や大阪などの大工場が被災するなか、無傷で残り、戦後の日本の綿糸生産を支える屈指の工場となりました。</p> <p>昭和52年(1977) 鐘紡本体から綿紡織部門は分離しカネボウ綿糸となりました。</p> <p>その後、平成6年(1994)に工場は閉鎖されましたが、跡地では平成21年(2009)全国都市緑化フェアが開催されました。</p> <p>岡山市</p> <p>Remained Site of the Former Kaneboumenshi Saidajji Factory</p> <p>Saidajji Bouseki (spinning industry) was found by Saidajji village and nearby personage in 1896. It was incorporated into Kanebuchi Bouseki in 1911, and started to run as Kanebou Saidajji factory.</p> <p>During the Second World War, while large factories in Nagoya and Osaka become struck, it remained undamaged and became a leading factory supporting the Japanese cotton yarn production after the war.</p> <p>In 1977, the cotton spinning business group was split from the main branch of Kanebou and was found as Kaneboumenshi ("Menshi" means cotton in Japanese). Afterwards, the factory was closed down in 1994, but in 2009 the National Urban Greenery Fair was held at the remained site.</p> <p>Okayama City</p> </div>
<p>※: 設置位置</p>		

漱石の姉 岸本小勝

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区金田1901	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p> <p>PASCO IPC</p> <p>70m</p>		<p>漱石の姉 岸本小勝</p> <p>明治16年(1883)、新島繁(のぶ)と、白井 富子と結婚したのち、直島の松竹庵の隣町電 局のそばに住んでいた岸本家の長女、小勝と した。すくなくとも色白の美人で、字が書 け、和歌の二体字が書けたことから、 蘭名が鶴川はんじょうです。</p> <p>明治17年(1894)、直島が東京に郵船になっ たことで、二人は東京に引っ越しました。彼 れは東京での事業に就いていた新島は、明治 18年(1895)東京府の代官が任期、同じ東京の 下谷区を共にしました。小勝は4歳半下の弟 の繁太郎と育ちました。</p> <p>明治20年(1897)年、直島が東京で亡くし た小勝は、岡山の共同社に嫁った後、新島利 一(利一)は東京に居たが結婚してからは平 平と結婚しました。</p> <p>発行所: 岡山県立図書館 2012</p>

陣場山遺跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町旭ヶ丘2丁目2-77付近	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

平松措大句碑

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町瀬戸502付近	

天台宗 中津山願興寺

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町肩脊728付近	
		

児童福祉の父 石井十次

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区上阿知2260付近	

天満宮

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区犬島127付近	
		

定紋石

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区犬島235付近	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		 <p>岡山歴史散歩 ー 岡山の歴史を歩く ー</p> <h2>定紋石</h2> <p>天島は、貴重な花崗岩（犬島みかげ）を産出する石の島と知られています。岡山城、京都の二条城、江戸城をはじめとする各地の城の石垣・林道の植樹（八幡宮の八幡宮はごしそ人命の石）が使われています。</p> <p>徳川徳の天守城（現・大阪城）再建にあたり、築城を期してられた各大名は自分の定紋を一つ一つの石に刻み込みました。これを定紋にしています。</p> <p>大島には、石垣の築造の際の定紋と思われる「左三つ巴」が刻まれた定紋石が残っています。銅自派から注文を受け、大阪に運ぶために大島で取り出されたものようです。</p> <p>(資料提供: 大原町内会) 岡山市</p>

玉井丸山古墳と玉の井の井戸

平面図		表示内容
住所	岡山市東区瀬戸町観音寺567付近	 <p>岡山歴史散歩 - 玉の井の歴史を知る -</p> <p>玉井丸山古墳と玉の井の井戸</p> <p>観音寺丸山にある独立丘上に築造された前方後円墳で、全長は約150m、高さは約11mあります。古墳時代中期のもので、瀬戸町内では最大の古墳です。</p> <p>この丘上を併平して、玉井小学校（明治41年丸山に移転、途中玉井倉庫所を新設）として61年間、民間企業の工場として12年間、神戸女子短期大学瀬戸セミナーハウスとして2004年末までの16年継続利用されました。現在は1980年に閉鎖した瀬戸町郷土館と共に、2007年開学し、多くの学生が学ぶIPU環太平洋大学の施設として利用されています。</p> <p>また、丸山の泉源の側に古来、清水の絶えることがなかった「玉の井の井戸」があり、これがこの辺りを「玉井」と呼ぶ由縁とされています。</p> <p>〔情報提供：瀬戸町観光文化協会〕 岡山府</p>
地番(公図)	—(道路)	
 <p>凡例 ✕ :設置位置</p>		

窪八幡宮

平面図		表示内容
住所	岡山市東区久保618	<div data-bbox="1489 403 1780 1273"> <p>窪八幡宮</p> <p>窪八幡宮</p>  <p>貞觀元年（859）、釜崎庄（現在の西木寺釜崎）の領主であった藤井左馬之進弘高が宇佐八幡宮より分霊を勧請して、建立しました。当宮は古来、武運・勝運の御利益で名高く、室町幕府初代将軍・足利尊氏、岡山城主・宇喜多道家、秀家、池田元政など多数の領主、武人の祈願堂や社領者進状があることから、深い信仰を集めていたことがわかります。</p> <p>足利尊氏が右殿横の「水初め井」で千本松に水を与えたとされ、宇喜多道家は尊皇に6八咫、長さ一里余り（幅約14.4m、長さ約4km）の馬場を作り、松一千本を植え付け、行幸に馬場馬も行われていたといわれています。宮入り道の「浮世の松」跡はその名残りであり、松の木は御宮殿まで残っていたとされています。</p> <p>また、天正20年（1592）の豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、当宮の神主藤井弘高が許可し、窪八幡宮が鎮守した社倉が陸奥として使われました。この跡は香川県高松市の法皇寺に現存しています。</p> <p>その他にも、本殿裏の池に伊弉諾大神が宿るとされ、本殿裏根には頭が蛇、身体が人の「蛇頭神」が祀られています。</p> <p>（資料元：窪八幡宮）</p> </div>
地番（公図）	岡山市東区久保618	
 <div data-bbox="291 1149 604 1260"> <p>凡例</p> <p> : 設置位置</p> </div>		



和算家・窪田浅五郎の墓

平面図		表示内容
住所	岡山市東区君津709付近	 <p>岡山歴史散歩 — まちの歴史を知る —</p> <p>わさんか くぼたあさごろう はか 和算家・窪田浅五郎の墓</p> <p>窪田浅五郎（1773～1838）は江戸時代後期に活躍した和算家です。現在の岡山市東区君津出身で、岡山藩の著名な算家・原田完五郎に算術を学び、寛政8年（1796）には算術免状を与えられ、文化2年（1805）に岡山藩士となりました。</p> <p>文化3年（1806）に伊能忠敬の第五次測量に浜石印行同行したことが忠敬の測量日記に記録されており、現在の岡山市北区裏町から広島県竹原市定海まで測量や観測を行いました。</p> <p>伊能忠敬測量隊が用いた測量器具のひとつとして、車輪の回転により距離を測る「算柱車」があります。窪田は算柱車と同じように車輪の回転により距離を測る器具として「踏柱車」を制作しており、伊能の算柱車より使いやすいうように改良されていました。</p> <p>（竹原藩史）展覧会資料 岡山市</p>
地番（公図）	岡山市東区君津707番53	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

開墾大官人之碑

平面図		表示内容
住所	岡山市東区豊田11付近	<div data-bbox="1456 406 1803 1268"> <p>岡山歴史散歩 一まちの歴史を知る一</p> <p>かいこんだい官人のひ</p> <h2>開墾大官人之碑</h2>  <p>津田永忠は、寛永17年(1640)に岡山弓之町で生まれた岡山藩政確立期の中心人物です。岡山藩主の補佐役として土木事業を中心に藩の産業・生活の基盤築りに尽力し、百間川・後楽園・沖新田・開谷学校などの開発を指揮しました。</p> <p>津田永忠は、元禄5年(1692)に広さ約1,900ヘクタールにおよぶ沖新田の干拓に着手しました。この開墾代官人之碑は、文政9年(1826)に津元の外七番東分(現東区豊田)庄助高次郎が永忠の偉業を表彰するために建立しました。「開墾大官人」とは「沖新田の干拓をなされた偉大な役人」の意で、碑の左面には永忠の没年などが記されています。</p> <p>また、豊田戎町海岸堤防(明治41年(1908)建立された「沖新田築堤徳懐慰碑」(通称作証大塚)は高次郎の子孫にあたる馬場台三郎によるものです。</p> <p>(資料提供) 岡山市 岡上室</p> </div>
地番(公図)	岡山市東区豊田418番1570	
 <div data-bbox="280 1141 604 1268"> <p>凡例</p> <p>✕ : 設置位置</p> </div>		

吟蔵大師

平面図		表示内容
住所	岡山市東区豊田488	<div data-bbox="1496 405 1832 1289"> <p>岡山歴史散歩 ーまらの歴史を知るー</p> <p>ぎんぞうだいし 吟蔵大師</p>  <p>片岡吟蔵（本名：片岡銀蔵）は、西国六千八ヶ所巡礼を何度もおこない、弘法大師の教えに感動して自分の屋敷にお堂を建ててお参りしました。このお堂には岡山・白久・西大寺などからも巡礼者が訪れるようになり、15日以外新田六千八ヶ所巡礼者を伴って巡礼の人々にほどかしていました。</p> <p>平成5年(1993)その故木が片岡家から発見されました。その版木によると文化8年(1817)月の寺承人となり、世襲人・西夏評定とつながる記述があります。版木では、財情が定かなくなっていた奥の院・特別札所、墓地なども確認できます。</p> <p>吟蔵が建てたお堂は、今は吟蔵大師(沖新田六千八ヶ所特別札所「善外寺」として建て替えられお参りされています。</p> <p><small>(情報提供：上田昭次氏(ふるまろ)</small></p> </div>
地番（公図）	岡山市東区豊田488番494	
 <div data-bbox="271 1161 607 1278"> <p>凡例</p> <p>X : 設置位置</p> </div>		

沖新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区政津1032-3	
		 <p>岡山歴史散歩 一歩の歴史を知る</p> <h2>沖新田</h2> <p>沖新田は、もとは海だった場所で、完成5年(1692)に津由家忠が干拓工事に取り組みました。用水路によって家が並ぶ様子や、どこまでも続く水田の眺めは、沖新田ならではの風景です。</p> <p>全長約12kmにおよぶ堤防工事は、岡崎から順調に工事を行つたのではなく、全体を9つに分けて競争させる形で一斉に実施されました。9つに分けられた工事現場は、延川沿いから順に「一會」、「二會」、「三會」…「八會」、「九會」と番号が付けられており、沖新田に見られる数字を含む地名は、当時に仕分けられていたそれぞれの工事現場の番号に由来しています。</p> <p>また、現在の箕津、政津、新津、并由といった地名は、藩主である津由光政の光政、干拓の責任者である津田永宗の津田という順に由来するという説もあります。</p> <p>先人たちのたゆまぬ苦労の上に築かれた沖新田。歴史と知恵を繋ぎ継ぎ、今日も多くの人々の暮らしが営まれています。</p> <p>岡山市</p>

幸島新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区邑久郷688	
 <p>凡例 ❌ : 設置位置</p>		 <p>最初に新田開発が計画されたのは朝鮮3年(1657)ですが、当時の技術では河口部の干拓は困難とされていました。また、当時の治水学の大家でもある備前守・楠兵衛は、上流から流れてくる大水が満潮時の海水に行く手をふさがれて洪水が氾濫するとし、大河の河口新田開発の弊害を説いていました。</p> <p>しかし、桑由次郎は、新田の排水路末端に樋門と遊水池を設け、満潮時は樋門を閉めて川水を遊水池に滞留させ、干潮を待って樋門を開き、川水を海へ放流する方法を考えました。それが「遊水池」と「樋門」の結合という方法です。永忠は、この技術を幸島新田の干拓で初めて使用し、天和4年(1684)2月に竣工、その年の6月には竣工工事を完了させました。幸島新田の開発を成し遂げたことで、永忠は当時不可能とされていた河口部の干拓が可能であることを実証しました。</p>

升田の共同濾過槽

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区升田182付近	 <p>岡山歴史散歩 一まちの歴史を知る—</p> <p>多岐宮での御用はごらみから <small>1888、1908、1928</small> <small>The roadhead station is nearby! Part 100</small> <small>岡山県立歴史博物館、岡山県立歴史資料館、岡山県立歴史資料館</small></p> <p>升田 ちやうどうろ せうた 升田の共同濾過槽</p> <p>干拓地である升田では、井戸の水は塩分を含み飲料水には適しませんでした。そのため、水濾し器を使って用水の水を濾過し、飲料水としていました。</p> <p>コレラなどの伝染病が流行し、人々の衛生への意識が向上した結果、急速に濾過槽が普及し、各集落に大型の共同濾過槽が設置されるようになりました。その構造は、ポンプで高台の水槽に入れた水を、小石やシュロの皮、砂、木炭などの入った層を通して濾過し、下の貯水槽に溜めるといったものでした。</p> <p>当時、共同濾過槽は各集落に設置していましたが、昭和31年（1956）から上水道が敷設されたことで徐々に姿を消し、現在ではこの場所にある1基のみとなっています。</p> <p><small>（掲載図案：上水歴史研究会）</small> <small>岡山市</small></p>
 <p>凡例  : 設置位置</p>		